1．教育計画

分野	専門分野　小児看護学	科目名	健康問題や障がいのある子どもとその家族の理解
単位・時間	1 単位・30 時間	対象学年	3 年生
方法	講義	時期	後期
講師名 （担当授業時間数）	法人講師　　黒川 和江（18 時間） 法人講師　　橋本 直美（6 時間） 法人講師　　星　 花苗（4 時間）		
学習目標	入院、治療に伴う身体的、精神的、社会的側面や、健康問題をもつ子ども及びその家族の特徴を理解し、必要な看護の方法を学ぶ。		
成績評価方法	筆記試験 100 点 ※外部講師 黒川 50 点、橋本 30 点、星 20 点の点数配分とする。 ※出席状況・態度面なども評価対象とする。		
使用テキスト	医学書院：小児看護学[Ⅰ]小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院：小児看護学[Ⅱ]小児臨床看護各論 インターメディカ：写真でわかる小児看護技術		
参考文献	中央法規：小児Ⅰ　看護観察のキーポイントシリーズ 中央法規：小児Ⅱ　看護観察のキーポイントシリーズ		
履修上の留意	子どもの健やかな成長と発達、健康な子どもと家族の理解の学習内容をしっかり復習し、講義に臨むこと。		
講師からの メッセージ	疾患や障害を持つに至った子どもと家族は、どのような体験を重ねているのでしょうか。子どもと家族の不安や戸惑いは計り知れず、治療や療養上の体験を共有し、その体験が子どもや家族の価値や意向とつながる感覚が持てるように支えることも看護の大切な役割だと思います。このような視点から、子どもの健康問題の経過やおかれている状況、症状からみた看護、代表的な健康問題について、小児看護の実際をもとに共に学習していきましょう。		

2．授業計画

回	時間	主題	授業内容	形態	担当
1	2	健康障害をもつ 小児と家族の看護	健康障害が子どもと家族に与える影響	講義	星
2	2	検査・治療を受ける 子どもの看護	1．プレパレーションとは 2．検査・処置時の看護 　検体採取の方法	講義	星

回	時間	主題	授業内容	形態	担当
3	2	外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護	1．外来における小児と家族の看護 2．小児の入院と小児･家族への影響 3．小児の入院環境 4．小児の入院と小児･家族の看護	講義	黒川
4	2	健康段階に応じた看護【　急性期　】	乳児期① 事例（発熱・発疹・啼泣） 看護（罨法・隔離）	講義	黒川
5	2	↓	乳児期② 事例（不機嫌・嘔吐・下痢・脱水） 看護（輸液療法・管理）	講義	黒川
6	2	↓	乳児期③ 事例（咳嗽・喘鳴・呼吸困難） 看護（吸入・吸引・与薬）	講義	黒川
7	2	↓	乳児期④ 事例（痙攣・意識障害・チアノーゼ） 看護（酸素療法）	講義	黒川
8	2	健康障害に応じた看護【　周手術期　】	幼児期① 事例をもとに手術前後の看護	講義	黒川
9	2	健康障害に応じた看護【　慢性期　】	幼児期② 事例（浮腫）に基づく看護（食事療法・安静療法[遊びの工夫]）	講義	黒川
10	2	↓	学童期 事例に基づく看護（運動療法・薬物療法・疾患の受容と自己管理支援）	講義	黒川
11	2	健康障害に応じた看護【　終末期　】	子どもの生命・死についての捉え方 死にゆく子どもと家族の看護	講義	黒川
12	2	災害時に必要な看護	災害時の子どもと家族への看護	講義	橋本
13	2	低出生体重児と家族の看護	1．低出生体重児の看護の役割 2．低出生体重児の環境	講義	橋本
14	2	障がいのある小児と家族の看護	1．障がいのとらえ方 2．障がいのある小児と家族の特徴 3．障がいのある小児と家族の社会的支援	講義	橋本
15	2	評価	筆記試験		